

ぼくの小さなしんせつ

神奈川県 西小学校

1年 林 和晃

「いたい。しみるよ。」

ある日のひる休み、おいかけっこをみんなですしていたとき、ぼくは校庭の大きなさくらの木のねっこに足がひっかかってしまったよ。左足のすねがジンジンいたくて、すぐにうごけなくてしゃがんでたよ。

「だいじょうぶ？」

みんながしんばいしてきてくれたよ。いたくて、ちだらけだったよ。

「ほけんしつにいったら。」

と、だれかがいってくれたんだ。ほけんしつで手あてしてもらったよ。ぼくのきずは、大きいバンドエイド2枚はったくらいの大きさだった。ともだちも見にきてくれたよ。いたかったけれど、ともだちがきてくれたから、ぼくはげん気が出た。

ある日のきゅうしょくするとき、ぼくはじぶんのしたくがぜんぶおわっていた。先生がトレー37人ぶんのきゅうしょくをならべてくれた。でも、先生はたいへんだった。ぼくは「なにかできるかもしれない」とおもったよ。先生にいつてみたよ。

そしたら、先生が

「じゃ、おねがいね。」

とこたえてくれたよ。ぼくはトレーをならべるお手つだいができたよ。

「たすかった。あきらくんは、まわりをよく見てたすけてくれるね。」

と先生がほめてくれた。先生にこえをかけて、よかったと思った。

ぼくは、こん虫大すき。ミツツボアリは、じぶんのおしりにミツをためているよ。それでなかまがおなかをすかせたとき、そのミツをみんなにわけてあげるよ。すごくやさしいよ。

でも、みんながいっぱい食べると、おしりがちぢんでしまう。そうしたら、またじゅえきのミツをいっぱい食べてためるよ。ぼくは、「おもいやりとかしんせつはミツみたいだな」と、ずかんを見ながら思ったよ。

しんせつは、してもされてもうれしいよ。ぼくは、これからみんなにやさしくしたいよ。